

次期森林計画についての森林管理署の検討方向

— 目次 —

1. 現行計画の概要
 - (1) 国有林野の管理経営に関する基本的な事項
 - (2) 国有林野の維持及び保存に関する事項
 - (3) 林産物の供給に関する事項
 - (4) 森林の保護に関する事項
 - (5) 国民の参加による森林の整備に関する事項
2. 次期計画の検討方向

福岡森林管理署

1. 現行計画の概要(平成26年4月1日～31年3月31日)

- ・ 筑後・矢部川計画区の対象は、筑後川水系の小石原川等の上流山地並びに矢部川の源流部に位置する国有林4,026haです。
- ・ 計画区内の森林の現況は、人工林を主体とした育成林が2,857ha(育成単層林2,828ha、育成複層林29ha)、天然生林が1,031haとなっており、林相別にみると針葉樹林はスギ、ヒノキ、広葉樹ではクヌギ、ケヤキなどとなっています。
- ・ 水源かん養保安林が全体の96%に達し、流域の治水対策、農業用水等の供給に重要な役割を担っているほか、渓谷、優れた森林景観などの豊富な観光資源に恵まれており、森林レクリエーションや保健休養の場として多くの人に利用されています。



(1) 国有林野の管理経営に関する基本的な事項

① 機能類型に応じた管理経営

国有林野の管理経営に関する基本計画に即して、開かれた「国民の森林」に向けた取組を推進するため、個々の国有林野を重点的に発揮すべき機能に応じて、5つの機能類型に区分し、それぞれの発揮すべき機能に応じて管理経営を行っています。

機能類型区分(面積)	機能類型区分の考え方	目指すべき森林の姿
山地災害防止タイプ (726ha)	山地災害の防止及び土壌保全機能の発揮を重視	根や表土の保全、下層植生の発達した森林
自然維持タイプ (16ha)	原生的な森林生態系や希少な生物の成育・生息する森林など属地的な生物多様性保全機能の発揮を重視	良好な自然環境を保持する森林、希少な生物の育成・成育に適した森林
森林空間利用タイプ (213ha)	保健、レクリエーション、文化機能の発揮を重視	保健・文化・教育的利用の形態に応じた多様な森林
快適環境形成タイプ (0ha)	快適な環境の形成の機能を発揮を重視	騒音の低減や大気の浄化など、人の居住環境を良好な状態に保全する役割を持つ森林
水源涵養タイプ (3, 071ha)	水源の涵養の機能を発揮を重視第一とすべき森林	人工林の間伐や伐期の長期化、広葉樹の導入による育成複層林への誘導を図る森林であり、森林資源の有効利用にも配慮

② 森林の流域管理システムの下での森林・林業再生に向けた貢献

県・市町村等との密接な連携を図るとともに、組織力・技術力・資源を活用し、民有林経営の支援等に積極的に取り組めます。

林業技術向上のための現地研修会を実施しています。

民有林と協調した効率的な森林整備を推進しています。



▼誘導伐現地研修

▲路網作設現地研修



▼共同施業団地の調印式

▲第1回運営会議



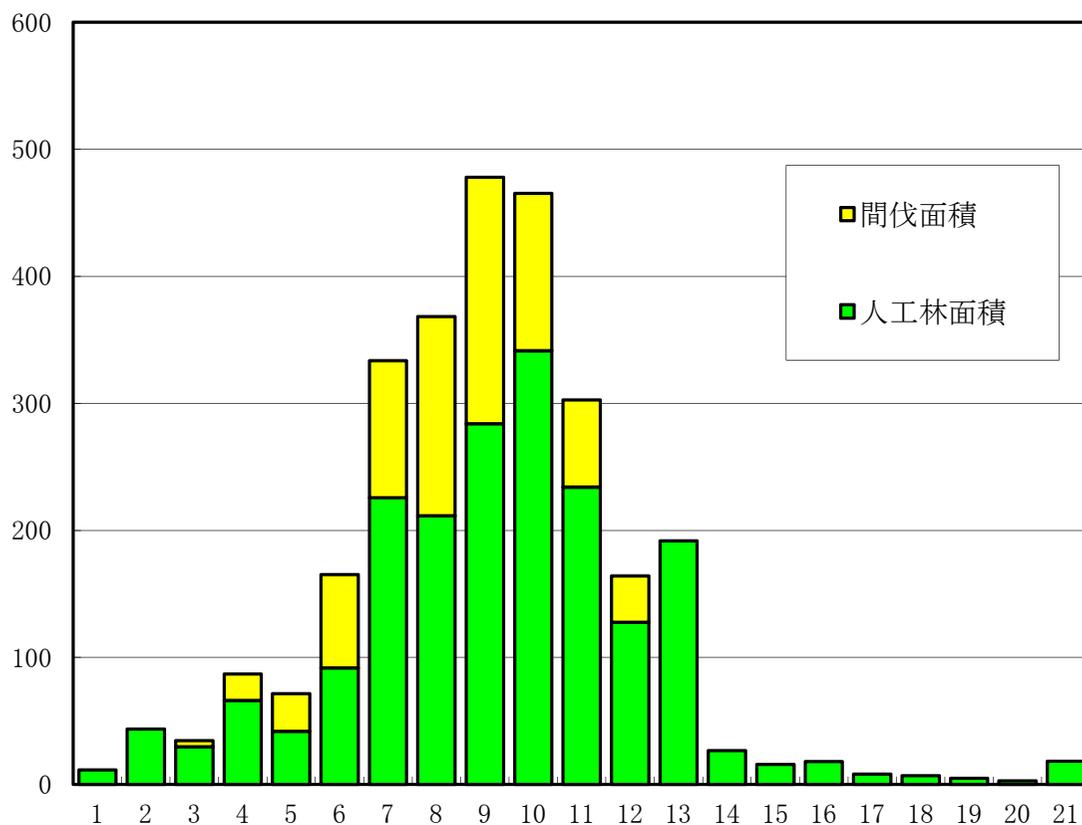
国有林内において、林業事業者、県の林業普及指導員等も参加して、路網作設研修や国有林が進める誘導伐等について現地検討会を行い、民有林への技術の普及に取り組んでいます。

民有林と国有林が隣接する朝倉市と嘉麻市の境に位置する八丁越地域において「森林共同施業団地」を設定し、関係者が連携して路網整備や森林整備を行っています。

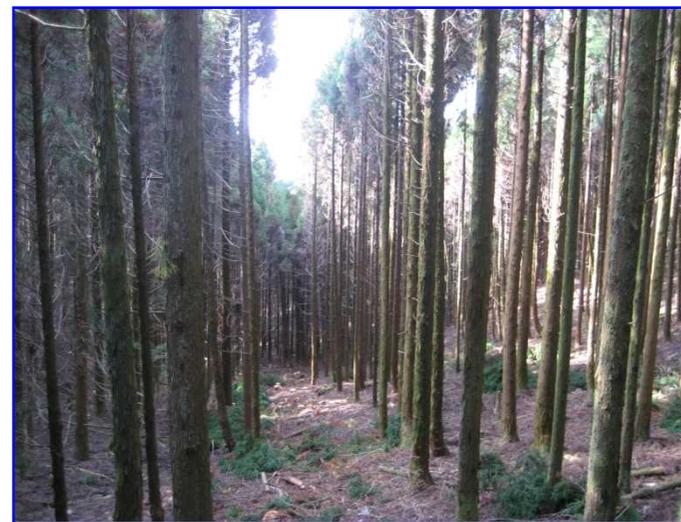
③ 地球温暖化防止に向けた積極的な間伐等の推進

本計画区の人造林の面積は約2,818haで、16年生から60年生の人造林の面積は約2,436ha（人造林面積の86%）です。

また、現行計画（H26年度～30年度）では間伐を約797ha計画しており、森林吸収源対策のためにも間伐を推進しています。



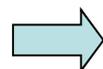
注：1年齢級は1～5年生を表します。



列状間伐を導入した人工林

④ 多様で健全な森林の整備・保全

間伐をはじめとした森林整備に積極的かつ着実に取り組むとともに、針広混交林化、複層林化、長伐期化などを通じて、多様で健全な森林の整備・保全を推進します。



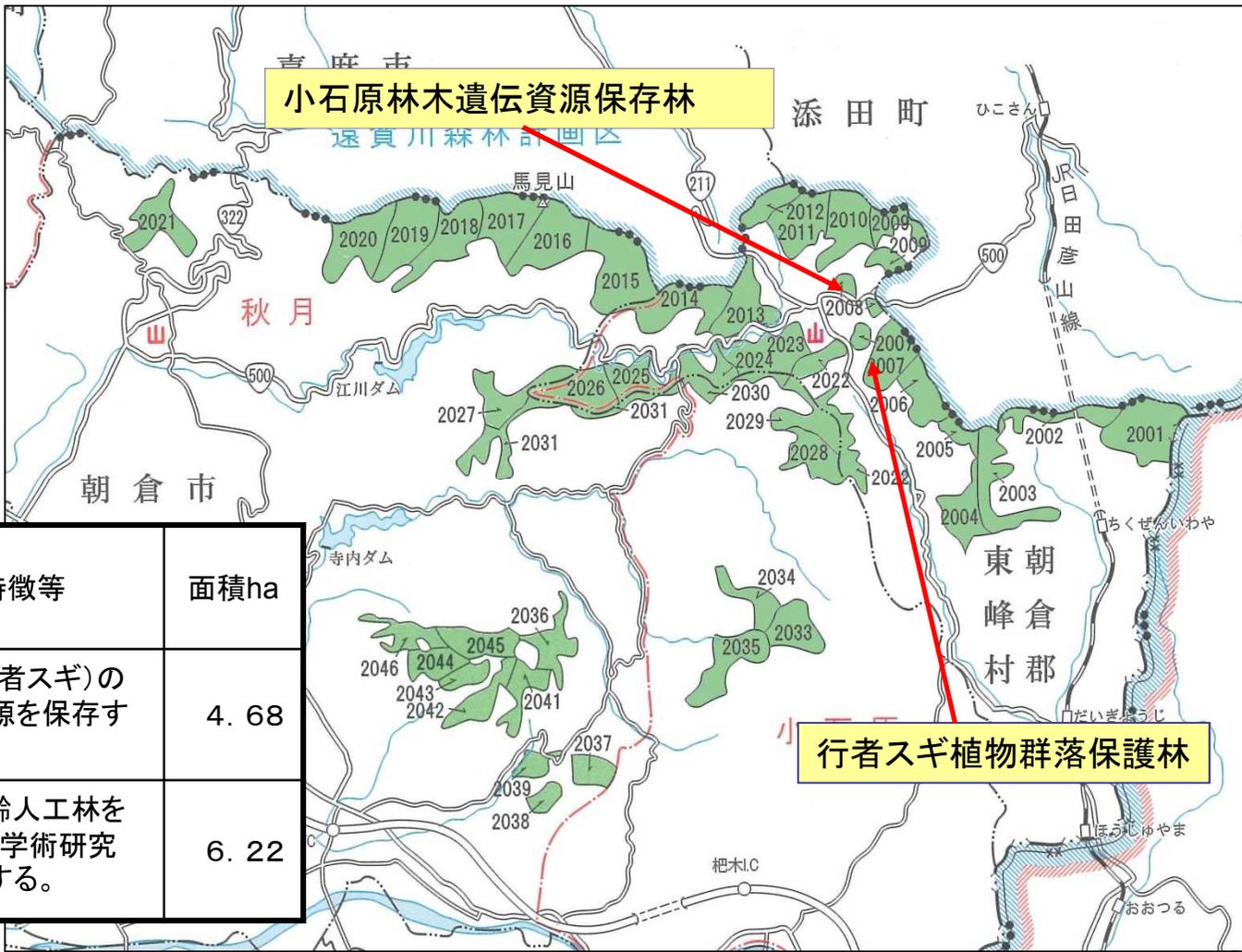
(2) 国有林野の維持及び保存に関する事項

① 生物多様性の保全(保護林)

本計画区には貴重な天然林等が多数存在しており、これらについては生物多様性の保全を図る上では重要であり、保護林として設定し適切に保護・保全を図っています。



▶ 行者スギの父「大王スギ」



種類	名称	特徴等	面積ha
林木遺伝資源保存林	小石原	スギ(行者スギ)の遺伝資源を保存する。	4.68
植物群落保護林	行者スギ	スギ老齡人工林を保護し、学術研究等に資する。	6.22

② 国民生活の安全・安心の確保に向けた効率的・効果的な治山事業の展開

安全・安心の確保に向けた効率的・効果的な治山対策に取り組んでいます。



八女市矢部村北矢部地区等をはじめとする流域内で発生した山地災害箇所等について、溪間工、山腹工による復旧工事を実施しています。



山地崩壊箇所の復旧で資材搬入が困難な場合には、ヘリコプターで播種して早期に緑化を図る施工をしています。

(3) 林産物の供給に関する事項 高効率・低コストな作業システムの定着

伐採、造林等の事業の実施の効率化を図りつつ、健全な森林を整備するとともに、木材の需要動向や木材産業の状況等を的確に把握しつつ、国有林材の安定的な供給を推進しています。



製材工場等へ安定的に供給する「システム販売」の推進や、高性能林業機械を活用し作業システムの効率化を図っています。



コンテナ苗を使用して植付時の労働力軽減に努めています。

(4) 森林の保護等に関する事項

森林の的確な更新及び造林木の確実な育成を図ることを旨として、対象鳥獣からの被害を防止するための鳥獣害防止対策を推進しています。



東峰村・東峰村猟友会・森林管理署の三者による「シカ被害対策協定」や請負による誘引捕獲事業により、増え続けるシカ被害に対する捕獲事業を推進しています。



県市町村関係者や各地区の猟友会が参加して、シカ被害対策の対策研修会を実施するなど、捕獲技術向上に向けた取り組みを進めています。

(5) 国民の参加による森林の整備に関する事項 国民参加の森林づくりと森林環境教育の推進

国有林野をフィールドとした国民参加の森林づくりを推進しています。

国民や企業の自主的な参加による森林の整備を推進します。

ボランティアの方々と協力して行者スギ周辺の保全を図っています。



「遊々の森」により、継続的な林業体験活動の場を提供し森林環境教育の推進に努めるとともに、「法人の森」により、森林づくりに参加・協力したいという企業の要請に応じています。



ボランティア団体等にフィールドを提供し、協働して、小石原の行者スギ等保護林周辺の木製保護柵や歩道整備等の環境整備に取り組んでいます。

2. 次期計画の検討方向

I. 多様で健全な森林づくりと木材生産が調和した持続的な森林経営

(1) 平成29年7月九州北部豪雨災害からの復旧と、これからの森林管理

災害箇所の一日も早い復旧と、再生に当たって地域の要望や林野庁の方針を踏まえた森づくりを行います。



(2) 筑後・矢部川の源流に位置する国有林としての役割

適切な森林の整備・保全を通じ、森林の有する多面的機能を発揮させます。



(3) 持続可能な森林経営

民有林と連携して施業を行いながら合理的な路網整備や計画的に原木を供給することで、林業を持続的に進めるよう取り組みます。



(4) 作業環境に応じた作業システム

林地傾斜等の作業環境に応じた作業システムにすることで、人員・機械の無駄を省きながら効率的な作業となるよう取り組みます。



Ⅱ. 地域と連携した生物多様性の保全

(1) 適切な有害鳥獣捕獲の実施

地域と共同で効果的な捕獲等を行いながら被害の減少に努め、希少植物や植栽した造林木の保護に取り組みます。



(2) 生物多様性の保全

溪畔林の設定や複層伐を取り入れ、多様な環境を形成し、生態系の保全に取り組みます。

